

予算・決算特別委員会

日時：令和2年12月8日（火）

本会議終了後

場所：第1委員会室

- 1 議案第109号 令和2年度島田市一般会計補正予算（第9号）
- 2 決算審査における反省点の取りまとめについて
- 3 その他

予算・決算特別委員会懸案事項および今後の対応（令和2年9月議会）

ステップ	実施事項	No	懸案事項	分科会名	対応の方向性	担当部署
ステップ 1 P	事前調査		特になし			
ステップ 2 D	重要案件 選定	1	・当局側が重要案件と出してきたものだけでなく、議会側からも事業を数件重要事業として候補に挙げられるようになるとうい。	厚生教育	・予算審査の段階で重要事業として取り上げることができれば、必然的に重要案件化されることが期待できる。また、事業進捗の段階で議論が出た都度、重要案件と位置付けてはどうか。	予算決算特別委員会正副委員長 および正副分科会長
		2	・監査資料を求めることが前提にあり、ゆくゆくは監査資料と同じものが入手できるものと思うが、実現にはもう少し時間を要する。	経済建設	・令和元年度の予算決算特別委員会スタート時点で、事業評価シート作成は、第2時総合計画後期（R4年）目標のため、都度現状確認を行い、極力の前倒し作成を要請する。	予算決算特別委員会正副委員長 および執行当局窓口（行政総務課）
ステップ 3 C1	議案質疑		特になし			
ステップ 4 C2	分科会	3	・取り上げた重要案件5事業について、もう少し厳しく審査する必要があった。	厚生教育	・分科会ごとに前回の取り組みを振り返ったうえで、審査に臨む。委員会任期についても議論すべき。	予算決算特別委員会正副分科会長
		4	・成果に関する報告書はあるが、重要な事柄が記載されていない場合があり、成果に関する報告書の成果については、審査を適切に行うために、事業内容が明確に理解できるように記載してほしい。	総務生活	NO.2と同様	
ステップ 5 A	提言の取り まとめ	5	・提言までのプロセスについて、別の方法を検討してみてもどうか。	経済建設	現在の方式での審査方法を、今後2回程度行い、あらたな議員構成において議論することとしたい。	予算決算特別委員会正副委員長 および正副分科会長
		6	・事業一つに絞るのではなく、関係する事業を合わせて提言していきたい。分科会の審査の成果として、複数事業に跨って提言を行えるようにしたい。	総務生活	現在各分科会1項目の提言としているが、審査状況を踏まえ提言内容のありかたを見直す時期と考える。	予算決算特別委員会正副委員長 および正副分科会長
		7	・関連した事業は合わせて提言をしていきたい。	総務生活	No.6と同様	
		8	・現在は、事業についての提言となっているが、事業にとらわれず、大枠見た際に関連したものについて、各分科会での審議をもとにした提言できるようにしていきたい。	総務生活	No.6と同様	

ステップ	実施事項	No	懸案事項	分科会名	対応の方向性	担当部署
ステップ 1～5 PDCA	その他	9	・委員の任期が1年では短い。	厚生教育	No.3と同様	
		10	・会議録の早期作成が必要。	厚生教育	議事録作成ソフトの研究を行う。	予算決算特別委員会正副委員長
		11	・事業シートを当局に作ってもらう必要がある。	厚生教育	NO.2と同様	
		12	・重要案件審査時にメモをするための記録用紙を作成した方がよい。	厚生教育	厚生教育分科会で記録用紙の案を作成し、用紙の検討を行う。	厚生教育分科会および予算決算特別委員会正副委員長
		13	・縦割り構造の中で当局の横のつながりが少ない印象である。	経済建設	審査における重要な課題であれば、事業評価の改善すべき事項として提言する。	予算決算特別委員会正副分科会長
		14	・事業のPDCAサイクルのうち、CAが完了する前に次年度の予算を作成する必要があるため、CAの部分が機能していない印象を抱く。	経済建設	継続事業の場合は、指摘された課題が生じてしまうが、特に重要な事業は次年度予算の審査段階で当年度事業への評価を加えるなどの工夫を検討する。	予算決算特別委員会正副分科会長
		15	・市の事業のサイクルではなかなか限界がある。	経済建設	No14と同様	
		16	・審査の中で、PDCAのCAの部分が自己評価のチェックのみでありチェック機能を果たしていない印象を持った。目標値についても、設定根拠が不明確である。	総務生活	NO.2と同様	